

令和6年度 第3回大山崎町社会教育委員会議（報告）

- I 日 時 : 令和6年11月26日(火) 午後3時30分～同5時
II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室
III 出席者 : 17名
○ 出席委員（8名）
○ 事務局（9名）
IV 会議名 : 令和6年度第3回大山崎町社会教育委員会議
V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

2件の議題（(1) 令和6年度生涯学習課関係事業報告について、(2) 令和6年度社会教育委員会議関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から1件の報告を行った。

なお、傍聴希望があり、1名が傍聴された。

1 開 会 事務局

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

※ 大山崎町社会教育委員会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす8名の委員の出席を確認）

4 議 題

※ 以降の進行は委員長が担当

(1) 令和6年度生涯学習課関係事業報告について 事務局
事務局から令和6年度（8月16日～11月15日）の生涯学習課関係の事業実績について報告

* 質疑応答

<放課後マイプレイスのレクリエーション「バスボムづくり」について>

委員

放課後マイプレイスで「バスボムづくり」を開催されたとありますが、「バスボ

ム」とは何ですか。どんな材料を使うのですか。また、たくさん参加されたのですか。

事務局

入浴剤です。材料については、申し訳ございませんが、手元に資料がなく、詳しくお答えできません。参加人数は約 40 人参加しました。

<ときめきチャレンジ推進事業「壁土塗り絵体験教室」について>

委員

「壁土塗り絵体験」とは、面白いことをされたなというふうに聞かせていただきましたが、壁土を塗ってどのように作ったのでしょうか。

事務局

講師がプラスチック製の型を用意されまして、和紙の上に型を置いて壁土を塗り、型を取ったあと数分乾かしましたら、でき上がるという形です。

委員

今の子どもたちに、壁土と言っても、全然話が通じません。私は、燕の巣を説明するとき、壁土のようにと表現するのですが、「それ、何？」というような反応です。燕は、泥を少しずつ運んできて、壁土を塗るようにして巣を作るのですが、今の子どもは壁土を知らないのです。そこから説明が必要です。それで、質問させていただきました。

<中央公民館の「子ども防災キャンプ事業」について>

委員

中央公民館の「めざせ！子ども防災士 子ども防災キャンプ事業」ですが、京都府の公民館大会などで、他の地域の方から「それは何？」という質問があり、関心が寄せられました。よい取り組みだったなというふうに思います。

<町民体育館の利用状況について>

委員

8月、9月の体育館の利用状況を見ると、町外の方の利用が多いと感じますが、例えば「U-12 選抜交流会」を開催された京都府バスケットボール協会はどういう団体なのでしょうか。

事務局

まず資料に載せていますのは、9時間以上の使用のみであり、短時間の使用は載せておりません。

「U-12 選抜交流会」などの大会は、京都府バスケットボール協会や京都府バレーボール協会などから、あらかじめ年間の使用希望を聞き、調整のうえ、利用いただいております。また他に多いマーチングなどについては、6か月前に体育館が空いていれば予約を取ることができるという形になります。

今年度、来年度と伏見港公園体育館が工事のため使用できず、太陽が丘の体育館も使用できないようで、もう3月末まで土日はすべて大会等で埋まっており、年間調整を行う団体のみでほぼ7割から8割ぐらいになっています。

バスケットにつきましては、京都府バスケットボール協会として天皇杯・皇后杯という日本一を決める大会の準決勝・決勝を大山崎体育館でという話もあるくらいで、同協会主催の大会は先行して前年12月の段階で年間調整をしている状況です。

委員

説明いただいて理解しましたが、町内の団体がその煽りを受けるという側面もあるかと思えます。町内の団体への配慮等はどうですか。

事務局

通常は2か月前から予約を取っていただくのですが、町内の登録団体につきましては、その他の一般利用者より10日前に予約できるような形で運用しています。おっしゃるように、町民が使えないという苦情は無きにしもあらずではありますが、年間又は6か月前に先に予約を取られたら、どうしようもないという状況はあります。

◎各委員が承認

(2) 令和6年度社会教育委員会議関係事業報告について

事務局

事務局から令和6年度（8月21日～11月20日）の社会教育委員会議関係の事業実績について報告

<近畿地区社会教育研究大会京都大会について>

委員

講演は、祇園祭の鷹山のお話でした。京都大会ということでこのテーマを選ばれたのかなと思ったのですが、お話を聞いたらすごくよかったです。祇園祭りで、鷹山が196年ぶりに復活したとのことで、その時の皆さんの努力、協力についてお話されました。近年の社会教育では、人とのつながりや地域でのつながりという言葉が主題になることが多いですが、お話も「想いをつなぐ」という題材でよかったですと思います。

講演の中で、大山崎町に所縁のあるえごま油のお話が出てきました。向日市の安井空工務店さんが、宮大工として鉾を作られたときに、えごま油を車軸に塗られたそうです。

また、私が参加した第1分科会では、和歌山県の太地町で中学校の先生、社会教育委員、公民館にも関係され、大変活躍されている方のお話を聞きました。お話の中でちょっと変わっているなと思ったのが、中学生の議会という取組でした。中学3年生になると公民の地方自治の学習があり、その勉強を兼ねて、子どもた

ちが中学生議会をつくり、議員になっていろんな話をし、それを本当の議会で活かしているというお話でした。例えば、「中学生は医療費無料ですが、高校生は無料ではないので、無料にしてほしい」と話すと、教育長が「わかった」と返事したという面白いお話が聞けました。

委員

私も第1分科会へ参加しました。和歌山県の太地町は、大山崎町よりも小さい町だそうですが、非常に財政が豊かな様子でした。鯨で有名な町ですが、漁中の海難事故で町民の1割近い若い世代が亡くなったことがあったそうです。歴史の大きな転換期をくぐってこられた町だなということが印象に残っています。

委員

私は第2分科会に出させていただきました。丹波篠山市の地域おこし協力隊の活動から考える地域づくりというものでした。もともと地域おこし隊は、神戸大学の農学関係者と昔からつながりがあったということで、学生・教授でスタートし、学びと地域に還元する取組として活動されているそうです。その中で、今までできなかった伝統芸能や地域を活性化する担い手不足の解消のためには、若者と地域、地元の学校、運営協議会、PTA、教育委員会、そのすべてが連携をとりながら事を進めていく必要がある、地元の有志の人だけでは難しくなった時代であるというお話でした。また、これからは、学校においても、地域全体が学校ということで、学校の外へ出て、例えば伝統芸能を掘り起こしたりする学びが大切になるのだろうとのお話もされました。

現在、丹波篠山市では、起業したい、地域でこんなことをしてみたいというプレゼンを、商工会、大学、自治会や社会福祉協議会などで審査してもらい、小学校区単位で、プレゼンした人に来て欲しいかどうか、受け入れできるか確認しているとおっしゃっていました。

大山崎町であれば、中学校の生徒たちが、町はこんなところが有名だとか、こんなことをしたい、という会話ができる、探求ができる機会があれば、ここに住んでみたいっていう町になっていくのではないかなと思いました。

最後に、社会教育委員は地域をつなげていく、今まで以上に大切な役割を担うようになっていくとまとめられましたが、今回は近畿のすべての社会教育委員の方が参加されていたので、それぞれの地域の悩みを発表し合ったり、質問できたので、私自身もすごく勉強になりました。

委員

私は、講演を聞かせていただいて印象深かったのが、これまで祇園祭は難なくずっと引き継がれているものと思っていたのですが、本当にマンパワーでつくり上げられているものなのだということでした。京都市内高校に通っていたとき、いつも期末テストのときに、祇園祭の囃子方の練習の音色を聞いていましたが、それは当たり前にあるものではなく、なくなってしまうたり、また復活したりということで、誰かが残していこうという意志で努力されているから聞くことがで

きるのだということを、あらためて知って、すごく勉強になりました。

委員

祇園祭の山を維持するのは本当に大変だということは聞いてはおりました。その町内の者は、その期間仕事を休まなくてはならず、また勤め先も休みを認めていて、当日は同僚が押し寄せて来るというような話も聞いておりました。196年も途絶えていたのに、かなりの部品が残っていたというのが驚きで、すごいなと思います。不足するものは他の山やいろいろなところから調達して、復興に向かっていったそうです。その中心になられた方は、お父さんから「祇園祭には二度と手を出すな」とずっと言われていたそうです。お父さんが亡くなり、「やっぱり何とかしたい」という気持ちがあって、再興につながったというお話も聞かせていただきました。講演としては、京都ならではの内容になったのではないかなというふうに思って、聞かせていただきました。

<京都府公民館大会について>

委員

基調講演は、高浜和田公民館長のお話だったのですが、年間に30講座を70回から80回開催されているそうです。どんな講座かということ、フラダンス、ヒップホップ、ヨガ、キックボクシング、エレキギター、キャンドル、流しそうめん、などなどです。参加者から「そんなに多くの講師を招いて運営できるのか？」という質問があったのですが、町内の人は4000円、町外の方は6000円の謝礼で来てもらっていて、年間12万円の予算で運営しているという話でした。子ども対象の川の生物調査とか、米づくり、稲刈り、ドローン教室などの事業もあり、ボランティアとして小学生が浜の掃除をする活動もされているそうです。最後に「完璧を目指さず、失敗してもいいからやってみようという思いで実践しています」と締め括られた、とてもいい講演でした。

委員

高浜和田公民館長は、人を集めるために、フェイスブックやインスタグラムのようなSNSをうまく活用されていました。世代間交流の橋渡し役という思いで、活動されているということでした。

小グループに分かれての話し合いもあったのですが、地域の違いがあって面白かったです。宮津市のある地域では、移住者が増えてきて、その子どもたちに何か経験させたり、移住者が主役になるきっかけをつくると、いろいろなつながりが出てくるというお話でした。

<近畿（全国）公民館大会について>

委員

今までなかなか参加できなかったのですが、大山崎町の中央公民館長もいらっしゃるということでしたので、参加させていただきました。

講師の方は、テレビにも出演されている有名な方でしたが、インスタグラムで情報発信されているそうです。私自身も感じていますが、特に若い人たちに向けては、日本の古き良きものを伝えていくために、最新の方法を用いることによって、つながりができるのではないかと思います。大山崎町も、若いご家族の方をよく見かけますので、活気あるまちづくりのために、若い方を受け入れられる町になったらいいなというふうに思いました。

委員

講演は、株式会社万葉社代表の若い方で、万葉集を現代語に訳されているというお話でした。私は古臭いので、現代語に訳して良いのかなと思いましたが、「愛するよりも愛されたい」という本が、26万部も売れたそうです。若い方には、現代語にしたらこれほど求められるのかと驚きましたが、やはり古語の万葉集も一度読んでほしいと思いました。

分科会の方は、中央公民館長がお話しされましたので、応援のため寄せていただきました。ゆっくり丁寧に話されて、防災とドローンの関係も画期的な公民館事業ではないかなと思いました。館長、ありがとうございました。

委員

万葉集を令和の言葉で、しかも奈良弁で訳したということでしたが、「可能性がない」ことを、現代では「ワンチャンない」と言うそうですね。よく分からない言葉も出てきましたが、どんなことでもいいのできっかけがあって、万葉集に興味を持つことは大事だなと思いました。

それから、中央公民館長のお話は、本当に丁寧に話されて、とてもわかりやすかったです。

◎各委員が承認

5 その他

事務局

※ 以降の進行は事務局が担当

事務局から次の1件について報告

① 町議会定例会（9月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）

6 閉会あいさつ